



永野百合子

# 家庭における グループ保育

こどもは家庭で何をしてあそんでいるのだろうか。よくよく観察してみると、全く放任されているのではないかと思われる節々が見受けられる。

幼児の生活指導（特に子どものあそび）について家庭が自主的な態度で幼児を実際に指導していき、また、幼稚園の教育が園だけにとどまらず、家庭や地域社会にまで浸透し、幼稚園の教育がこれら地域の上にながちりと根を張るものであってこそ、真の効果が期待できるのではないだろうか。

殊に本園の地域が、新しい都市的な要素を持っているので、幼稚園と幼児、家庭との個別的なつながりはあるが、横の相互のつながりが乏しいので、幼稚園と家庭、地域が一体になって幼児教育を進めていく必要が感じられる。この意味でつぎのような目標のもとに「家庭におけるグループ保育」を実施してきたのである。

## 一、目標

幼稚園と家庭、地域との一貫した教育活動のもとに幼児の生活を向上させる。

### 1. 幼児に対しては

(1) 家庭におけるのぞましいあそびをくふうさせる。

(2) どの友達とも仲よくグループであそぶ態度を養う。

### 2. 家庭と地域に対しては

(1) 幼児の家庭教育についての理解と関心をたかめる。

(2) 自主的に地域社会が協力しあって幼児教育を向上させる気運をつくる。

### 3. 幼稚園においては

(1) 幼児のあそびを幼稚園から家庭にまで浸透させる。

(2) 幼稚園の教育がほんとうに地域の実態の上に立つ。

## 二、経過と留意点

イ、対象 全幼児 全保護者

ロ、日時 夏休み中 二回×三回

九月以降 毎週金曜日

午後一時三〇分から三時三〇分まで。

	計 画	経過と特に留意すべき点
第一次	○おかあさん教室、おとうさん教室、地域別参観、出張懇談会の開催により幼児教育の重要性をたかめ、教育の意欲を高める。	○これらの諸計画を有機的に推進するために、家庭、地域ととのつながりを深め、実施態勢をととのめる。
第二次	○趣旨を理解させ、自主的な態度で各家庭をそれぞれ実施する。(各家庭を巡回指導する) ○輪番にグループのおかあさんによる話し合いの会をもち、またグループ保育について話し合う。(各当番家庭を訪問指導する)	○幼児のグループ活動が円滑にいくように考慮する。 ○楽しい雰囲気の中にもグループ保育に対する理解をさせる。 ○あそびせ方、場所、間食などの問題点について、研究的に話し合い、理解と熱意を抱かせる。 ○この営みを通じて子どもたちを育てるためには保護者が協力しなければならぬ。
第三次	○幼稚園教育の浸透をはかり、のぞましいあそびせ方を創意くふうさせる。 ○出張保育と有機的な関連を保つことにより、内容を充実させる。	○おかあさん教室、おとうさん教室、出張懇談会を開催、具体的な問題を話し合う。 ○幼児達が組織立ったあそびを要求して行く。 ○保護者の指導力の差が表れてくる。グループ保育と出張保育との関連を深め、あそびを発見し、グループ活動に自信と安定を与える。
第四次	○グループの編成替えをもっともいかなるようにならぬ編成を編成しなければならぬ。	○みなが協力してグループ活動を生活のなかでよりよく行なう。地域社会の発展に貢献する。

ハ、場所  
各家庭が輪番に遊び場所を提供する。  
地域別に五、六名を単位に編成する。

ホ、助言者  
直接的には各家庭の主な養育者。  
間接的には各実施家庭を教師が巡回指導する  
おやつ代として一回一〇円ずつ各当番の家に持ちよる。

ヘ、経費  
持ちよる。

ト、指導内容  
左表の通り

### 三、評価

(1) おかあさんたちが実際にグループ保育をすることによって、いろいろなあそびせ方を考えるようになった。

・ 例えば入園当初はぬりえなどをよく見かけたが、懇談会、おかあさん教室をはじめ、グループ保育後の話し合いをする度に、子どもの生活に対する理解が深まり、やがて二学期も半ば頃になり、グループ保育にまわってみると、おかあさんの心づくしのきれいに色染めされた砂絵がくふうされていたり、みんなが持ち寄った空かんや布で共同製作が計画されていたり、広い河原でおかあさんたちが力を合わせて石ころや、砂や木片を運びながら、楽しいものがつくられているのを見るとき、ほんとうに幼稚園と家庭とのびったりとした結びつきを感じるのである。

(2) 幼稚園のあそびが家庭、地域へ浸透した。

・ 子どもたちの家庭でのあそびを見ていると狭い路地裏などで、パッチン、ラムネに興じていたり、切り合い、ギャング、どろぼうごっこなどが多く、でん車ごっこなども最初は、棒切れなどを振りまわす程度であるが、幼稚園ののぞましい生活が子どもたちに滲透するにしたがい、次第に組織立ったあそびへと移行し、家庭地域にふさわしいあそびがなされた。

(3) 家庭、地域の実態をとらえた保育活動がいとなまされた。

・ わたくしたちがグループ保育や出張保育に巡回することによって、幼児をとりまくいろいろな生活の実態にふれることができるのである。

つまり、幼児の生活の潜在している問題点、或いはその背景となつて居る地域社会の特性などが、平素の幼児の具体的な性格行動と結びついて、地についた保育活動の手がかりとなるのである。

・またグループ保育を通じて、家庭、地域の素朴な素材やあそびが幼稚園へ持ち込まれることもしばしばあるが、わたくしたちは時折その思いつきや、くふうの良さに目を見はりながら、素材やその扱い方になお問題の余地はあつても、これが地域の中から生まれたものであり、おかあさんと子どもたちの創意によるものであることを思うとき、地についた力強さを感じると共に、これを大切に育てなければならぬと思うのである。

#### (4) 表現活動の素地を培うことができた。

・秋の一日、グループ保育にまわつてみると、花畑の中から子どもたちのはしゃいだ声がする。見ると明るい日射しのあふれる畝でみんながお花の世話をしている。日頃乱暴なA君もひたいに汗しながら、小さな花にそつと水をかけている。泣虫のE子さんはまっ黒になつて移植を手伝っている。

またいつも無口なTちゃんがグループの友だちのうちのもほりに参加してうれしそうに飛びまわつていたり、おかあさんをかこんで名作童話にひとみをかがやかせながら聞き入つていたS子のように、子どもたちがその家の雰囲気に入り切つて居るたのしい姿を見る度に、地域の片隅に少しづつ芽生えているこれら教育的なとなみを、そしてこの温さの中に育つ子どもたちの幸せを思うのである。

#### (5) いろいろな社会性が集団の中で育てられた。

・子どもたちは家庭や地域において、ともすればゆがめられた環境の中で生活している場合が多いのであるが、やはり憩の場であり、自由な気持ちで生活していることと思われる。

このような状態のところへ、意図的なグループ活動をさせることによって、平素の画一的な生活に新鮮な意欲をもたらし、いろいろな社会性を養うのに役立ったと思われる。

・内気、消極的なもの  
・協調性の乏しいもの  
・問題の子どもなどが少しずつよくなる機会や指導の手がかりをつかむことができた。

#### (6) 共同思考の場を通じて。

・おかあさんたちがグループ保育の後、その日のグループ保育のようすや、平素の生活の問題点について話し合うことにより、今まで気付かなかつた子どもの姿を発見したり、子どものあそばせ方についても、互に示唆を与えられ、共通の問題を考え合うことにより、よりのぞましい方向付けがなされるのである。

#### ・生活の見つめ方について

お月見の日のグループ保育であつた。或る当番のおかあさんは、自宅裏の白いすすきの河原で子どもたちを存分にあそばせた後、手に手に女郎花、萩などを持ち帰らせ、みんなで飾り付けをすることにした。やがておやつの中には、子どもたち手づから、好きな動物の月見だんごをつくり、グループのおかあさんたちも招いてさきやかなパーティを開いた。

そして子どもたちが戸外の生活をよろこぶこと、グループのみんなの花壇づくりのたのしき、十円の枠内のおやつのかぶうなど、つぎつぎと実際生活のかぶうが話し合われるのである。

平素、投げやりな全く放任極まる家庭や、教育が全く自分たちの手の届かないところにあるような考え方をしているおかあさんも、身近な実感を通して生活のたくましさ、大切なよりどころなどを納得していくようであった。

#### ・親同志の研修

子どもの生活について、今までの惰性で正しいと信じていたことも、グループの子どもたちの生活振りを観察したり、互に話し合うことにより、おのずからおかあさんたちの生活に対する根本的な考え方が反省されてきたのである。欲求不満、愛情過剰などおとなの生活自身を反省する機会も与えられ、またこの話し合いが継続されるところに、おかあさんたちの和やかな雰囲気をつくり出し、実行への強い手がかりとなるのである。

#### ・新しい人間関係

今まで自分一個の生活にとじこもり、ともすれば協調性や、自主性に欠ける生活に陥りがちなおかあさんたちであったが、家庭地域におけるグループ活動によって和やかな教育の広場を生み出しかけたことは、このいとなみのもっとも大きな収穫といえよう。みんなで手をつないで子どもたちをよくしようという気運ができてきたことである。

#### ・子どもたちどうし

・子どもたちとおかあさんたち

・おかあさんたちどうし

・先生とおかあさんたちと子どもたち

というふうに対一の人間関係から複数の人間関係において、力強いいとなみができてきたのである。

#### (7)問題点と対策。

・最近留守家庭が多くなり、本園においても約30%もあり、幼児教育の上に大きな問題といえよう。

これらの家庭はグループ保育を進める上にも問題であるが、現在では家人の休日の日に変更したり、グループの家庭が自主的に受け持ったりして実施している。

・また近年兄妹数が著しく減少し、子どもたちの性格形成上、考慮されるべき点が多いと思われるが、グループ保育を効果的にすることによって補うことができるのではないかと思われる。

#### あとがき

わたくしたちのこの計画も幾多の問題に当面しながら四年を経過し、ようやく軌道にのってきたのであるが、今後更に幼児の生活の重要な支えになるよう、幼稚園教育との連携を密にしながら、その内容の充実而努力したいと思っている。

この間、グループの母と子によるさきやかないとなみが次第に家庭、地域の人々の心を動かし、地域ぐるみの教育的環境を醸成するに至ったことは、わたくしたちのもっともよろこびとするところである。

(兵庫県加古川市立川西幼稚園)